

## 新体制の消化器内科

これまで、当院において消化器内科は実質3名でしたが、4月より消化器内科の常勤医が4名増え、実質7名体制になりました。これにより、より充実した消化器診療が行えるようになりました。

また、増員に伴い胃カメラの新機種も導入しました。これまで、癌の最終診断は組織採取（生検）により行っており、これは今も変わりありませんが、新機種では粘膜表面の微細血管の太さや走行パターンを従来機種よりもさらに鮮明に観察することができます。癌化により粘膜表面の血管口径が不同となり、血管走行が不規則となるため、これらを内視鏡で拡大観察することにより、生検を行わなくても高確率で診断可能となりました。テレビに例えると通常画面から8K画面になったような感じです。生検は簡単な検査ですが、近年の高齢化に伴い抗血小板剤・抗凝固剤（血液をサラサラにする薬）を服用する機会が多くなっており、このような患者さんに生検を行うと予期せぬ出血を起こすことがあり、可能な限り不要な生検は避けることが望ましいです。新機種では画像観察だけで、ある程度までは癌か否かの予測が付き、疑わしい病変を中心に生検し、極力、出血などの偶発症の軽減に努めています。すなわち、通常の内視鏡では癌が否定できないと思える病変も、拡大観察で問題ないと判断できれば生検は不要ということになります。このように新機種導入により、極力不要な生検を減らし安全面とともに、より正確な診断にも貢献することが期待されます。この新機種は当院では3本保有していますが、中堅病院であっても複数保有している施設はまだ少なく、これからの大和高田市を含めた中和地域の上部消化管の癌の早期発見に大きく貢献するものと確信しています。今後も引き続き市民のニーズに応えられるように、取り組んでまいります。



副院長 消化器内科 中谷 敏也